

## 五月度「月次祭」成井理事長挨拶

「月次祭」、おめでとうございます。  
瑞々しい若葉の輝きのもと、<sup>かぐわ</sup>香しい風を感じる季節となりました。

昨日、新しい天皇陛下がご即位になり、新元号「令和」の時代の幕開けとなりました。

誠におめでたいことと心よりお慶び申し上げます。

本日は、祭主であられる教主様の篤いお祈りに包まれる中、「月次祭」を厳粛に執り行わせていただきました。

先程は、全国の信徒の皆様を代表して、〇〇布教区〇〇布教所の〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。

このご奉告は、神様から私ども一人ひとりにいただいたみ恵みであると受け止め、私も思いを共にして神様にご奉告させていただきました。ありがとうございました。

さて、先般、私は、教主様のお許しのもと、いづのめ教区の白澤代表のご配慮をいただき、「教主様アメリカご巡教」の随行団の一端に加わらせていただきました。

アメリカでは、パウロ・サントス教会長をはじめとする皆様が、教主様と一つ心に歩む明確な意思表示をされ、現在、ニューヨーク、フロリダ、ロサンゼルスなどを中心に、全く新しい信仰と布教に喜び溢れる心で努めておられます。

そして、この度の「教主様アメリカご巡教」を心から待ちわびられ、感謝と感動いっぱいの思いでお迎えになりました。

そうした中、4月21日には、フロリダ州マイアミにおいて、教主様のご出座を仰ぎ、「春の大祭並びにアメリカ世界信徒大会」が厳粛且つ盛大に執り行われました。

当日は、アメリカ全土をはじめ、ブラジル、ボリビア、コスタリカ、ドイツ、韓国、そして、日本からの参拝団も含めて約300名が参集し、どこまでも教主様と一つ心に、明主様の世界救世（メシヤ）教開教のみ心を求めて、夢と感謝と決意に満ち満ちた大会となりました。

明主様は、昭和25年（1950年）に、本教を「世界救世（メシヤ）教」とお定めになり、その3年後の昭和28年（1953年）に、「アメリカを救う」という御論文をご発表になりました。

私は、今、明主様が人類の救いにとって極めて重大なこととしてお示しになった、真に尊い「メシアの御名」の真実をお受けし、お伝えする全く新しい段階の救いの御用が、アメリカの地にしっかりと根付き始めたことは、全人類の救いにとっての一大慶事ではないかと拝察いたしております。

私は、このような歴史的なご巡教に随行させていただきただけましたことを、主神と明主様に、そして、教主様に、心より感謝申し上げます。

また、この度のご巡教を通して、私は、大きな学びと悔い改めの機会をいただきました。ご巡教の期間中、私は、「教主様と一つ心に」歩ませていただくということは、教主様を一心に見つめ、命がけでお仕えすることであり、そのことが、明主様に、ひいては主神にお仕えすることであり、そこに至っていない自らの姿にはっきりと気づかせていただく出来事がありました。

私は、こうした真に尊い気づきをいただきましたことを決して忘れることなく、今後のご神業奉仕にお仕えさせていただくことを深く肝に銘じました。

私は、どこまでも教主様と一つ心に歩む日本のすべての信徒の皆様とご一緒に、そして、ブラジル「世界メシア教」をはじめとする世界中の皆様とご一緒に、主神が明主様と共に進むことになるメシアの御名にある真の信仰の道を、大いなる夢と希望を胸に力強く歩ませていただきたいと存じます。

また、来月6月15日には、「プラサヴェルデ沼津」において、①之光教団といづのめ教区、そして、東方之光教区が合同で教主様のご出座を仰ぎ、約5,000名規模の「地上天国祭」を執り行わせていただきます。

その「地上天国祭」には、「メサイア ハレルヤコーラス」の合唱が、いづのめ教区を中心とした約300人の信徒の皆様により奉納されることになっています。

先般の「春季大祭」の折、教主様は、

その天国で私どもを生んでくださった真の親を忘れ、自分の生きる目的を忘れ、思い思いに生きていた私どもを、主神は赦してくださいました。

明主様は、私どもと同じように地上に来られ、全人類を代表して悔い改められ、天国に立ち返られて、主神の子たるメシアとして新しくお生まれ

になりました。

私どもも、私どもの模範たる明主様に倣って、悔い改めて、赦しをお受けし、天国に立ち返らせていただき、新しく生まれさせていただけなのです。

なぜならば、主神は、メシアの御名にあって、私どもを赦し、再び天国に迎え入れ、私どもと共にお住みになることを、あらかじめ定めておられるからです。

何という大きな赦しであり、恵みでありましょう。

教主様は、このようにご教導くださいました。

また、教主補佐・岡田真明様は、同じく大祭において、

ですから、地上天国祭で「ハレルヤコーラス」の奉納をさせていただくわけですが、これは、誰を讃えている曲なのかということに迷うことはないわけです。「全人類の中に平等にある神様の魂。メシアの魂。それを讃えてる歌なんだな」と思って聞かせていただく。歌わせていただく。

そして、「神様の子どもとなるために」のリーフレットも、「全人類の中に平等にあるメシアの御霊<sup>みたま</sup>を知ってほしい。その魂に目覚めてほしい」という思いでその活動に取り組むことができると思います。

真明様は、このようにお話しくださり、そして、続けて、

全人類の誰もが、メシアと名の付いた魂を賜<sup>たまわ</sup>っている。この本当の救いの福音を宣<sup>の</sup>べ伝えていくのは、明主様の信徒である私たちに託<sup>たく</sup>された使命なんです。

と、力強くお話しくくださいました。

私は、このお言葉とお話を、真っ直ぐに心の中心にお受けさせていただきたいと思わせていただきました。

私どもは、メシアの御名にある真の天国の福音を告げ知らせてくださった明主様に心からの感謝をお捧げすると共に、「メシアの御名」と全人類の真の親であられる主神を心からお讃えさせていただく「地上天国祭」として、多くの皆様と共に臨ませていただきたいと思います。

また、本日は、皆様に嬉しいお知らせがございます。

昨年5月より、①之光教団と白澤代表をはじめとするいつのめ教区は、教主様のお導きのもと、力強い連携・協働体制をお許しいただきました。

この一年を振り返りました時、いつのめ教区の皆様は、教主様と共に、たとえすべてを失ってでも明主様の真の救いの道を歩む意思を明確に示され、全く新しい信仰の道を一途に進んでこられました。

私どもは、何があっても教主様と一つ心に歩まれるいつのめ教区の皆様の尊い信仰のお姿に、数々の感動と貴重な学びをいただき、大きく勇気づけられてまいりました。誠にありがたいことと感謝申し上げます。

こうした中で、教主様のもと、大祭やおひかり拝受式など主要な行事を合同で執り行わせていただいていたまいりましたが、聖地月次祭につきましても、本年7月よりご一緒にさせていただくこととなりました。

①之光教団といつのめ教区は、今後、より一層力強く一体化した在り方へと、様々な点につきましても協議し、決定してまいりたいと存じます。

そして、この度私どもは、いつのめ教区の皆様と共に、それぞれのご家庭で祖霊様をお祀りする新しい「御霊璽」と「みたまや」を賜うこととなりました。

先祖の方々は、私どもの中に生きておられます。

私どもと同様に、先祖の方々も、神様の尊いみ旨をお受けし、いつの時も神様の子供として新しく生まれる養いの中におられます。

私は、この度のお改めについて、すべての先祖の方々と共に、真に尊い「メシアの御名」の真実をお受けするための新しい祖霊祭祀の姿であると強く感じております。

新たな「御霊璽」と「みたまや」を前にして、私は、教主様が作詞をされた「家路」の中の「ともに帰ろう ふるさとへ 神の家」という歌詞が心に浮かんでまいりました。

世界救世教①之光教団は、主神が明主様を通してお示しくださっている「メシアの御名」にある真の信仰をお受けするために、教主様のご教導を唯一絶対無二の拠り処とし、全人類に対する新しい段階の救いの御用に、ひたむきに喜々としてお仕えさせていただく宗団であります。

私は、明主様が教主様のご教導を通してお伝えくださる真の天国の福音を、すべての先祖の方々と共にお受けし進ませさせていただきたいと存じます。

なお、この度の「御霊璽」と「みたまや」は、御神体をご奉斎していないご家庭にもお迎えすることが出来ます。

本日は、新たな「御霊璽」と「みたまや」を展示しておりますので、ご覧いただきたいと存じます。

最後になりますが、今月5月12日には、名古屋栄布教所におきまして、「教主様ご巡教・中部布教区信徒大会」が、そして、5月26日には、札幌布教所におきまして、いつのめ教区と合同で「教主様ご巡教・北海道信徒大会」が執り行われます。

さらに、教主様が御自ら「おひかり」をご親授くださる「おひかり拝受式」が、5月19日に総本部御神前において、また、名古屋と北海道におきましても、大会前日に執り行われます。

教主様には、「アメリカご巡教」からお戻りになった後お休みになる間もなく、私どものために、地方へもご出座賜りますこと、本当にありがたいことと心より感謝申し上げます。

私どもは、教主様のお心を真摯にお受けし、「メシアの御名」の真実をお伝えする「リーフレット」を携えて、“想念の御用”としての「会う・聞く・浄霊」を中心に全く新しい布教に努め、教主様のご出座を仰ぐ「拝受式」と「信徒大会」に、一人でも多くの方々と共に臨ませていただきましょう。

「地上天国祭」に向かう今月の皆様方のご神業奉仕におきましても、大いなるみ恵みと安らぎに包まれますよう、お祈りさせていただきます。

ありがとうございました。